

# 国際交流新聞

グローバル社会コース

第一号

2023.10.10

[制作]  
聖心女子大学  
国際交流学科  
グローバル社会コース  
広報委員

## はじめに

十月十日、グローバル社会コースの二年生が「国際交流入門」の授業を履修している一年生へ向けて、「人類（私たち）は現代国際社会の危機や対立をどのように乗り越えるか」の総合テーマのもと、グループ研究発表を行いました。私たちグロ社二年生は「グローバル社会概論」の授業の一環で五月から七つのグループに分かれ、各班で考えたテーマに沿って、試行錯誤しながら準備を進めてきました。ここでは、私たちが取り組んだプレゼンテーションの内容を紹介します。



## 各班の発表内容

グループ1 「技術革新と複合戦争 ～ウクライナ戦争の戦況は悪化するのか～」

「」を搭載した兵器の普及やサイバー攻撃といった技術の発展が戦争のあり方を変えているのか。また、今日では一般市民によるフェイクニュースやゴシップ記事の拡散を使った情報戦もある中で戦争の形がどう変化しているのか。これらの問いをもとに、現在のロシア・ウクライナ戦争の戦況も取り上げ、最新の時事問題に関連づけて論じられた興味をひく発表でした。

グループ2 「AIによる戦争復興の可能性はあるのか」

「AI技術が発展する中で、戦地の戦後復興にその技術をどのように活用することができるのか。ドローンや衛生データを用いた戦地の被災状況調査、復興計画の策定、「AI」による地雷除去、戦争時の写真の復元。「」を用いた戦後復興を多角的に考察し、課題点や倫理問題を検討していました。今後ますます注目される「AI」技術を復興に活かすという新しい視点の発表でした。

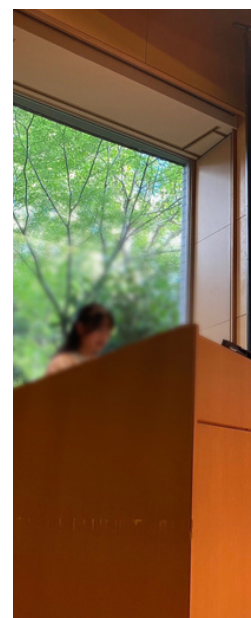
グループ3

「ウクライナ情勢におけるロシアとの関わり ～なぜロシア非難決議に反対・棄権したのか～」

ロシアによるウクライナ侵攻の歴史的背景をふまえ、国連のロシア非難決議において反対票と棄権票を投じた国々を表で明示。各国のロシアとの関係や立場を分析し、反対国と棄権国が国際舞台において反露を表明できる状況はどのような場合に実現するのか、それらの国々の展望を考察。さまざまな国とロシアとの関係に関する細かい紹介は、聞き手に新たな知識を与えました。

グループ4 「米中貿易摩擦で日本が受ける影響について予測しよう」

「貿易」という国際関係で欠かせない関係のあり方にフォーカスし、米中貿易摩擦とは何か、その問題点を議論。日中・日米・米中それぞれの貿易関係の現状をふまえた上で、身近な機械製品に使われている日本製部品のシェアの大きさを挙げつつ、機械製品をめぐるアメリカと中国の相互規制の深刻化が日本にもたらす影響を指摘。影響を緩和するための解決方法を呼びかけました。

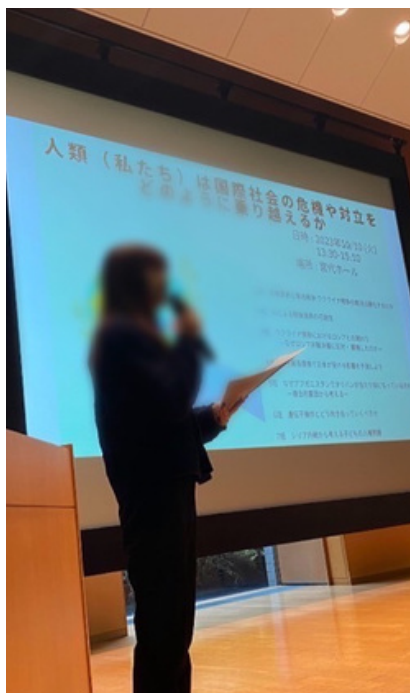


グループ5 「なぜアフガニスタンでタリバンが当たり前になっているのか（複合的要因から考える）」

アフガニスタンでは、非人道的行為・武力行使をするタリバンが実権を握り、人々は厳しい現状を抱えています。なぜタリバン化は起こってしまったのか、価値観・貧困・環境・教育の諸要因から複合的に分析。欧米的な考えの強要は思想の対立を生み出すことから、アフガンの価値観を尊重しつつ女性や子どもが不足なく教育を受け、正しい判断を行えるようにするべきだと主張しました。

グループ6 「遺伝子操作とどう向き合っていくべきか」

近年注目を集める遺伝子操作やゲノム編集を取り上げ、化学や生命分野の問題をグローバル社会コースとしてはどう捉えていくのかを重視し、生命倫理の観点から考察。各国による対応の差異がある中、国際社会全体で共通のルール化をはかるべきではないかと指摘。幅広い世代へ向けたアンケート調査の実施と結果分析、また日本と他国の状況を比較していたことが印象的でした。



グループ7 「シリア内戦から考えるこどもの人権問題」

世界各地で紛争や内戦が次々に勃発する中、長期化するシリア内戦の事例を通して、普遍的な問題を提起。紛争や内戦に巻き込まれる脆弱な「子ども」の立場にフォーカスし、こどもの権利条約の基準を用いながらシリアの子供たちの状況の諸側面を指摘。シリアで何が起きてきたのか丁寧な説明され、戦下の子供たちをめぐる長期的課題を考えさせられる発表でした。

## まとめ

長期にわたって取り組んだグループ研究は、グループによって視点や向き合う分野が異なり、オリジナリティあふれるものとなりました。とはいえ、どのグループにも共通していたのは、グローバル社会コースらしく国際社会が直面する問題に目を向けて問いを喚起し、表面だけでなく課題を深く汲み取って考察を行っていたことです。

現代国際社会には、乗り越え、解決していくべき対立や危機が存在します。私たちグローバル社会コース二年生は、これからも身の回りから国際レベルまで広く視野をもち、さまざまな分野に関心を向けて社会的課題に取り組んで行きたいと思っています。以上国際交流学科・グローバル社会コースの広報委員からでした。今後も国際交流学科による記事を沢山掲載していく予定です。よろしくお願いいたします。

## 編集

文責…グローバル社会コース  
二年 伊藤茜 河内ひめ菜  
寺本あゆみ